

平成21年11月13日

株主、投資家の皆様へ

フィンテック グローバル株式会社  
代表取締役社長 玉井 信光

本日、本決算を発表させていただきました。まずは、毎年お約束しております株主、投資家の皆様への決算説明会、並びに動画配信を延期することになりましたこと、心よりお詫び申し上げます。

一年間の総括を、直接皆様にお顔を見せながらお話できないことに大変な歯痒さを感じておりますが、当社の今期の課題として都度触れさせていただいている「3つの課題」のうち、「財務リスク・資金繰り対応」の大きな要素を占めるユーロ円CBの任意償還日を3ヵ月後に控え、その対応に注力する現況よりも、全ての対応が完結する来年2月以降に、改めて皆様にご報告をするべき、と考えておりますので、今しばらく、お待ちいただければ幸甚です。

本決算の状況につきましては、決算短信のほか、別添の決算説明資料において詳しく説明しておりますので、それらをご覧ください、本稿では「3つの課題」の進捗状況に付き、簡潔に述べさせていただきますと存じます。

前期、当社が為すべきと掲げてまいりました「リスクアセットの処理」「財務リスク・資金繰り対応」「収益力の回復」という3つの課題への対応についてですが、まず「リスクアセットの処理」については、期を通して処理を断行し、対応は既に終結しております。

「財務リスク・資金繰り対応」については、先に述べましたとおりユーロ円CBの任意償還期限に向け引き続き対応に注力しております。

最大の課題は、やはり「収益力の回復」ですが、これについては、当社の中核となるべき事業がはっきりと見えてまいりました。当社の一貫した強みは、やはりストラクチャードファイナンスを駆使した案件創出能力と、資金拠出者のアレンジメント。これまで主力であった、金融機関からのデットアレンジメントに加え、欧州、アジア圏等の多様な投資家との太いパイプラインより資金を導引したデット・エクイティアレンジメントこそが、当社のコア・コンピタンスであると確信しております。前期においても、企業再生事案において30億円以上の資金を複数の投資家から導引し、案件組成を完遂するなど、着実に実績を積み上げておりますが、今期はその更なる事業推進のために組織形態の大幅な刷新を含めた施策を打ってまいります。

まさに、新生フィンテック。皆様にその鼓動を感じていただけるよう、引き続きグループ全社、全役員がベクトルを一つに漸進してまいり所存です。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後ともご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。